

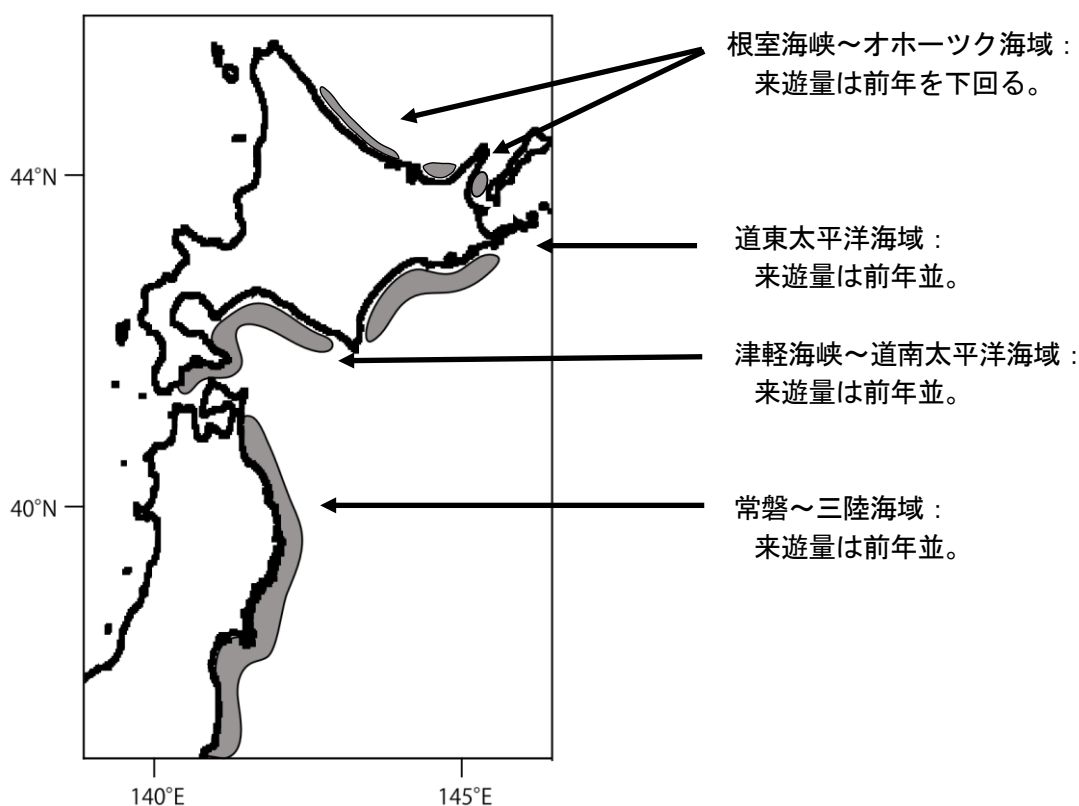
2023年度 第2回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し（2023年11月）のポイント

スルメイカの来遊量は、道東太平洋海域、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域では前年並。根室海峡～オホーツク海域では前年を下回る。

海域別の予報については以下の通り。



問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：渡邊、緑川
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.jafic.or.jp/information/category/news/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構
<https://abchan.fra.go.jp/>

2023年度第2回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

今後の見通し（2023年11月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2023年級群）

1. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：明瞭な主漁場が無いまま終漁する。

2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：明瞭な主漁期が無いまま終漁する。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

4. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

I 予報の説明

第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報の公表後の漁況の経過等を主要な情報として、11月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、道東太平洋海域、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域では前年並、根室海峡～オホーツク海域では前年を下回る。各海域における見通しは以下の通りである。

1. 道東太平洋海域

この海域に来遊する漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群と考えられる。2023年8月～9月に実施した漁場一斉調査とイカ類南下期資源調査*の結果によるCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は、道東周辺海域では漁獲が無かった前年を上回ったものの低い水準であった（図1）。

10月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下のとおりであった。花咲港における漁獲量は前年を下回った（前年31.4トン、本年16.2トン）が、CPUEは前年並（前年0.15トン/隻/日、本年0.16トン/隻/日）であった。厚岸港における漁獲量は前年を下回った（前年5.3トン、本年3.7トン）が、CPUEは前年並（前年0.11トン/隻/日、本年0.10トン/隻/日）であった。海域全体で見ると、漁獲量は前年を下回った（前年36.6トン、本年20.1トン）が、CPUEは前年並（前年0.14トン/隻/日、本年0.14トン/隻/日）であった。一方、10月上旬～中旬における釧路港の沖合底曳網によるスルメイカ漁獲量は536.5トンで、前年同期を上回った（前年130.6トン）。これらのことから、10月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年並であったと考えられる。

FRA-ROMS**による11月の予測水温（図2）では道東海域は親潮第一分枝が差し込み、また道南太平洋海域の水温が平年よりも低くなることから、本海域から魚群が南下しやすい海況とで考えられる。

以上のことより、11月の道東太平洋への来遊量は前年並に低い水準であると予測される。また、漁場形成は散発的となり、11月で終漁となると予測される。

*北海道立総合研究機構釧路水産試験場が独自に実施。

**国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した海況予測システム（FRA-ROMSII）による予測水温（<https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/index.html>）。

2. 根室海峡～オホーツク海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。羅臼港における10月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を上回った（前年9.3トン、本年12.2トン）が、CPUEは前年を下回った（前年0.16トン/隻/日、本年0.12トン/隻/日）。これらのことから、10月上旬～中旬における当海域への来遊量は、前年を下回ったと考えられる。

釧路以東（144.4°以東）におけるいか釣り調査では、前年同様に漁獲が無かった（図1）。国後島および択捉島周辺の太平洋側における11月の予測水温（図2）は平年よりも高いため、スルメイカが太平洋からオホーツク海へ回遊しやすい環境であると考えられるものの、前述の通り道東太平洋への来遊量は前年並に低い水準であると予測される。以上のことから、11月の根室海峡～オホーツク海域への来遊量は前年を下回ると予測される。また、漁場形成は散発的となると予測される。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、津軽海峡～道南太平洋海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主

体と考えられる。津軽海峡～道南太平洋周辺海域（41° N 以北、143° E 以西）における漁場一斉調査（いか釣り調査）の平均 CPUE は、前年を下回った（図 1）。

10 月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下のとおりであった。大畑港における漁獲量は、前年を上回った（前年 0.7 トン、本年 1.0 トン）が、CPUE は前年並であった（前年 0.01 トン/隻/日、本年 0.01 トン/隻/日）。函館港における漁獲量は、前年並で（前年 10.7 トン、本年 9.0 トン）、CPUE も前年並（前年 0.06 トン/隻/日、本年 0.05 トン/隻/日）であった。大畑港、函館港の全体で見ると、漁獲量は前年を下回り（前年 11.3 トン、本年 9.9 トン）、CPUE は前年並であった（前年 0.05 トン/隻/日、本年 0.04 トン/隻/日）。これらのことから、10 月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年並であったと考えられる。一方、前述の通り、道東太平洋海域への来遊量は前年並に低い水準であると予測される。以上のことから、11 月の津軽海峡～道南太平洋海域への来遊量は前年並になると予測される。

4. 常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は、常磐～三陸海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。三陸周辺海域（41° N 以南、143° E 以西）における漁場一斉調査（いか釣り調査）では、海域全体で 1 尾しか漁獲されず、漁獲の無かった前年同様に極めて低い水準であった（図 1）。

10 月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下のとおりであった。青森県の三沢港、八戸港における合計漁獲量は前年を下回り（前年 29.5 トン、本年 10.2 トン）、CPUE は前年を上回った（前年 0.10 トン/隻/日、本年 0.12 トン/隻/日）であった。岩手県主要 7 港における漁獲量は前年を上回り（前年 3.9 トン、本年 27.0 トン）、CPUE も前年を上回った（前年 0.05 トン/隻/日、本年 0.13 トン/隻/日）。宮城県（石巻・気仙沼・女川・志津川）の小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を下回り（前年 0.19 トン、本年 0.03 トン）、CPUE は前年並であった（前年 0.01 トン/隻/日、本年 0.01 トン/隻/日）。青森県三沢港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年を並で（前年 33.5 トン、本年 37.2 トン）、CPUE は前年を上回った（前年 0.08 トン/隻/日、本年 0.13 トン/隻/日）。

CPUE は前年を上回ったことから、10 月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年を上回ったと考えられる。一方前述のとおり、道東太平洋海域への来遊量は前年並に低い水準であると予測される。以上のことから、11 月の常磐～三陸周辺海域への来遊量は前年並と予測される。

II 各海域の漁況経過（8 月～10 月中旬）

2023 年 8 月～10 月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港でのイカ釣り漁による水揚げ量（生鮮：速報値、一部未集計）は 609.1 トンで、前年（974.3 トン）を下回った。以下各海域別のイカ釣り水揚げ量を示す。

1. 道東太平洋

道東 4 港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における 2023 年 8 月～10 月中旬の合計水揚げ量は 21.2 トンで、前年（85.7 トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図 3-1 に示す。

2. 根室海峡～オホーツク海域

羅臼港における 2023 年 8 月～10 月中旬の合計水揚げ量は 26.2 トンで、前年（10.8 トン）を上回った。旬別

の漁況の経過を図 3-2 に示す。

3. 津軽海峡～道南太平洋

大畑港、函館港における 2023 年 8 月～10 月中旬の合計水揚げ量は 23.0 トンで、前年（62.1 トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図 3-3 に示す。

4. 常磐～三陸海域

青森県（三沢港、八戸港）、岩手県（主要 7 港）、宮城県（気仙沼港、石巻港、女川港、志津川港）における 2023 年 8 月～10 月中旬の合計水揚げ量は 538.6 トンで、前年（815.7 トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図 3-4 に示す。

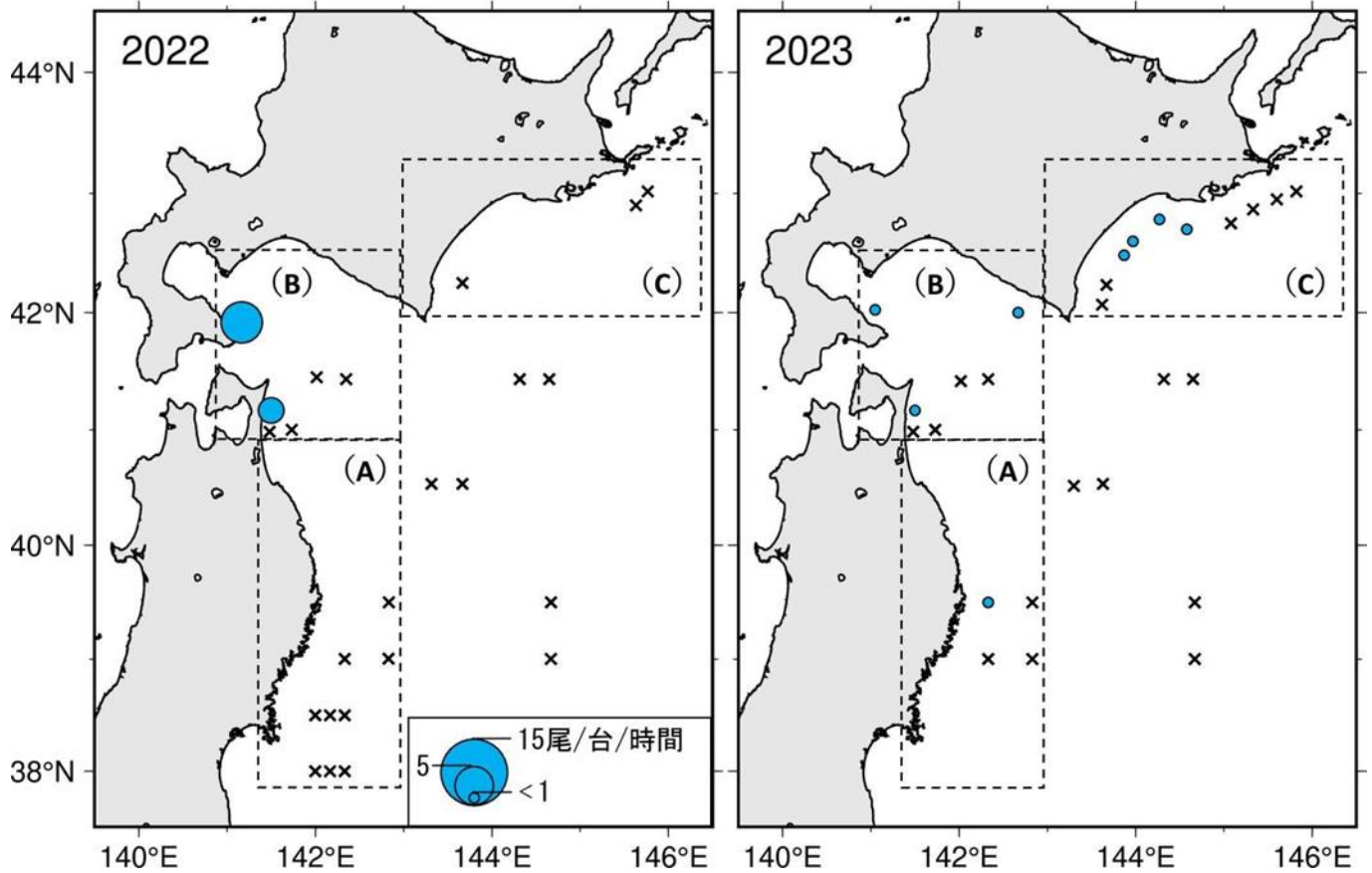
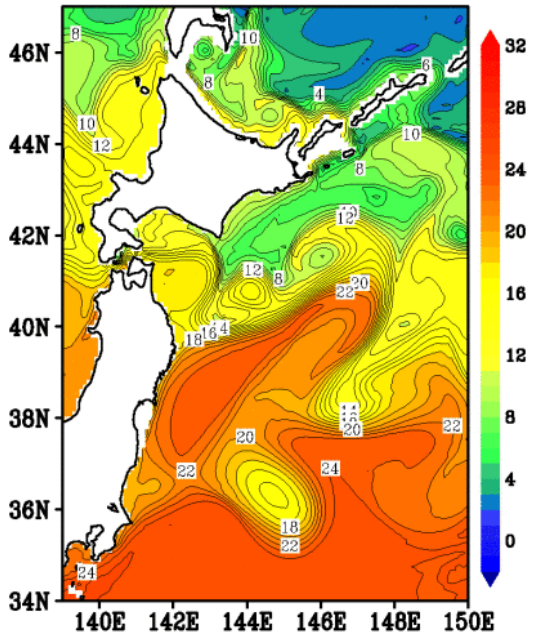


図1. 太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り1台1時間当たり漁獲尾数）
 2022年8月～9月（左図）、2023年8月～9月（右図）のいか釣りによるスルメイカの
 CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布を左図右下の凡例にしたがって
 示す（×は漁獲なし）。破線で囲まれた海域は（A）常磐～三陸周辺海域、（B）津
 軽海峡～道南太平洋海域、（C）道東太平洋海域および根室海峡～オホーツク海域
 における来遊量予測の根拠となった調査海域を示す
 （2023年 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報より抜粋）

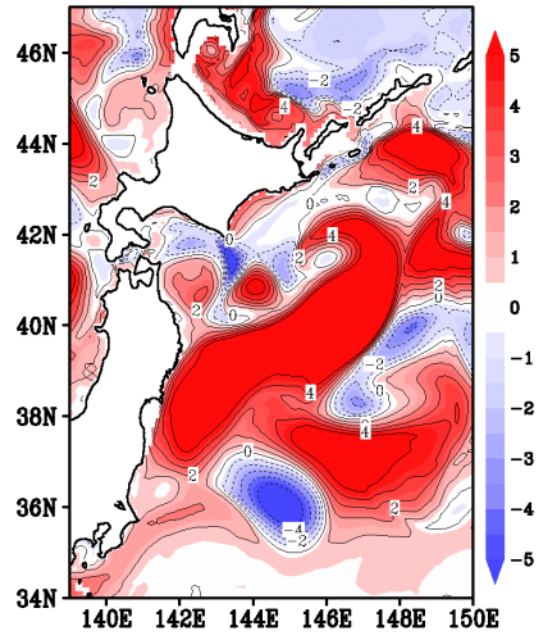
FRA-ROMS II

2023/11-early Temperature[°C] (50m)



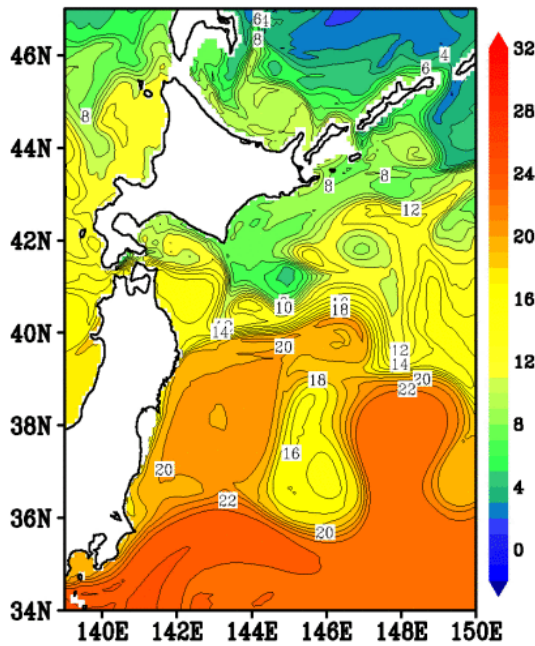
FRA-ROMS II

2023/11-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)



FRA-ROMS II

2023/11-late Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS II

2023/11-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)

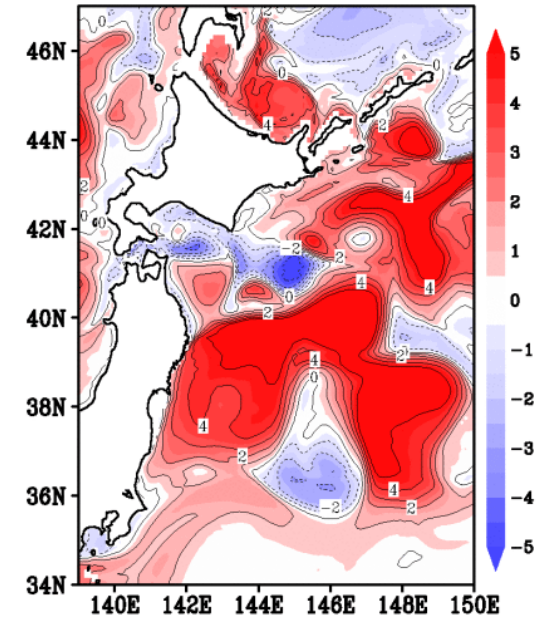


図2. 海況予測システムFRA-ROMSによる2023年11月上旬（上段図）と下旬（下段図）の50m深予測水温（左図）および平年差（右図）（10月25日時点）

注：50m深はスルメイカの代表的な分布深度

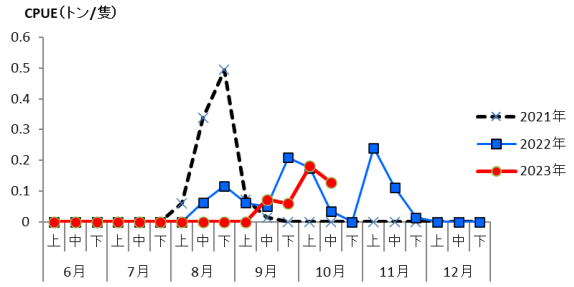
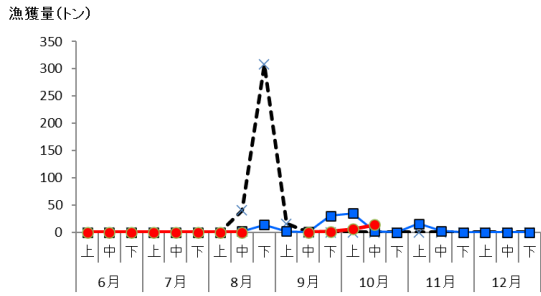


図3-1. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

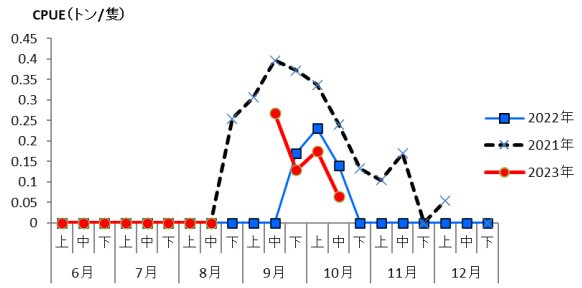
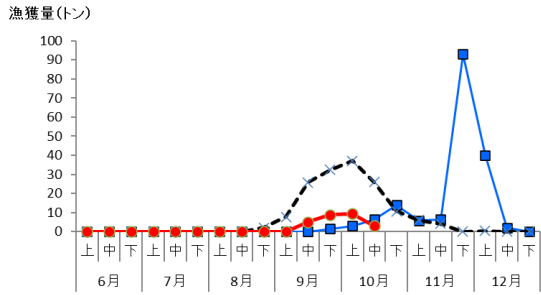


図3-2. 根室海峡～オホーツク海域の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

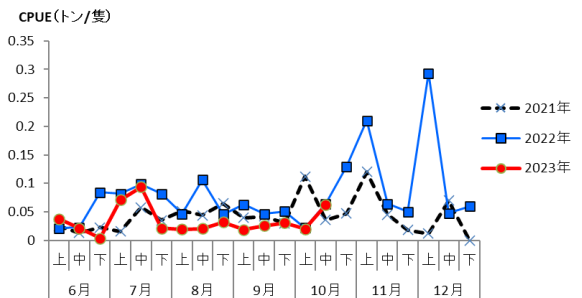
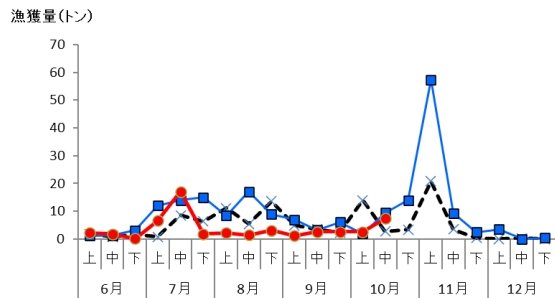


図3-3. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

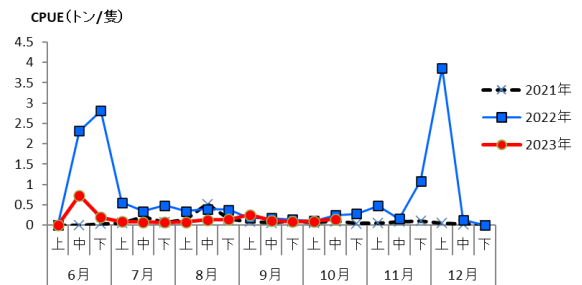
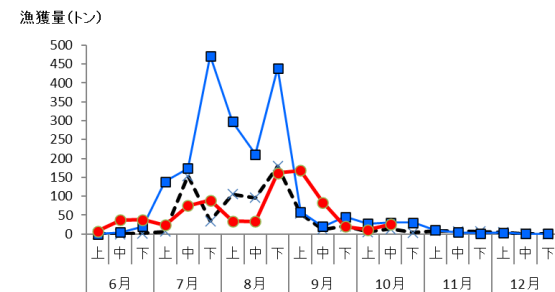


図3-4. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
福島県水産海洋研究センター	(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産・海洋技術研究所	